

区民ひろばの和室

女と女2が少し距離を置いて座っている。しばらく間。男が入室。

男、（遅れて）ごめんなさい。

女2 あ、ぜんぜん、

男、

男 こんな、こんなに来てくださって（小笑い）、

男、ホワイトボードに文字を書く。「日常をムードで破壊し「わたしの日常」へ」。「破壊する」の前に「かわいく」を付け足す。付け足した後、「かわいく」を黒く塗り潰して消す。「やさしく」と書こうとするが、塗りつぶして消す。「日常を」を消す。

男 あの、まあ日常があつて、その日常と言ってもあの、もうなにが日常って、なってることもあるかもしれないですけど、その、日常があつてもあの、日常が、また出てきます。、え、（笑い）あの、なんでしょう、その日常っていうか、そのルーティーンがあつて、あの、おはようございます、（女に）

女、あ、

男、違う（笑い）ごめんなさい、よし。（笑う）

女、

男 あの、知り合いがおはようございますっていうとその、おはようございます、（女に）女、おはようございます、

男 ごめんなさい、やらせて、あの、そうでした。その、あります、そういうルーティーンが（笑い）なんとなく、だから、おはようって言ったら、おはようって返す、それはもう勝手に、その自分の意志もなく、そういう決まりがあるから。誰が作ったのか、その顔も知らない人の、もう顔なんてない、実質、人、

女・女2、

男、その、どんな顔で見ているんだか、あなたたち（笑い）、

女2、え？

男、違う、あの、こういう、だから、そのもうここにもそのありますけど、なぜかあの、決まりが、このあなたたちとぼくの間にも、すでに（笑い）

女・女2、

男、（笑い）わからんな、もう（笑い）もう、なに言ってるか、女、

女2 その、日常、

男 うん、

女2 日常については、あのどう、その、、あなたが思っているのかは、なんとなくわかりました。

男、、うん、

女・女2、、、

男あの、、ありがとうございます、（笑顔）

女・女2、、、

男、メモ帳を取り出し、ページをめくる。なにか書き込む。

男、、「ありがとうございます」っていま書き込みました。

女、え？

男、なんで書き込むんやろって、（思いました？）（笑い）

女・女2、、、

男、、ほいであのもう1回日常について、あの言うと、（メモ帳のページをめくる）、あの、、まあそのさっきの例で言うと、おはようございます、おはようございます。あの、こういうことがいっぱいあります。他にもその言えたかもしれないのに、そのもつとあのことばじゃなくてもいいんですけど、なにか、、でも大体決まってるから、朝会ったら、あのおはようって言うって。それがあの、ぼくなんかは嫌で、嫌じゃないときもあるけど、あの、、そういういっぱいサイズの大小のルールがあって、、朝出勤とか、あのかたちが、、その、かたちの向こう側、おはようの向こう側を、気持ち悪い言い方かもしれないけど、向こう側へ行く方法をその、、やるやつ、、あの、、新しい日常を作り出すから、、

男（手を叩く）（叩いたことに）ごめんなさい、、あの、、実演を、（笑い）、実演します。その、わかりにくいと思うので、ぼくの説明だと、（笑い）

女2 、あ、はい。

男どうぞ、立ってください。

女、女2、立ち上がる。

男、グレムリンのモグアイのトレーナーを着る。

女・女2、、、

男あの、、じゃあ、あの会社、、会社というか、、まあ図書館で、あの、あなたがいたとして、

女2 あ、はい。

男そこでその、本を読むか、あの、まあ座るかあのなんでもいいんですけど、、はい、あのいます。

男、、あので、ぼくがその少し離れたところにいます、そのぼくも普通に来た人として、
女2、、はい。

男、女2、設定に入る。

男、自動ドアを開ける。男、紙バックの飲み物を取り出す。ストローをさす。ストローの口をトレーナーのモグアイの口に運ぶ。モグアイがストローを介し、ジュースを飲んでいるような絵になります。男、紙バックを持っていない方の手でジュースを飲んでいるモグアイを指し示す。

女2、、それを見る。

男、しばらくその様。男、紙バックを強く指で押す。ジュースが噴射。

女！

女2 わっ！

モグアイにジュースがかかる。

男、、、

男、、やめて（トレーナーを脱ぎながら）

女・女2、、、

男、座る。女と女2も座る。

男、、、

女2、、、どういう（ことだったんですか）？

男、、、

女2、、、

男、、、（うなづく）

女2、、、

男、、、馬鹿げてる。（苦笑い）

女・女2、、、

男 馬鹿げてる、かなり。

女・女2、、、

男、、、

男、紙を3枚取り出す。女・女2に配り出す。紙には、「日常でムードを破壊する」ことと

モグアイの実演の相関関係が描かれている。

男 印刷した、コンビニで。(苦笑)

女・女2、、、

男、、、ぞっとする、その印刷してたことに、それを(笑い)、

女・女2、それぞれ紙に目を通す。

男、、、じつと見とるわ、

女・女2 (見続ける)

男、、、

男、モグアイのトレーナーでこぼした水をふく。

男 夜書いたから、

女2、え？

男、、、夜思いついて書いて、夜以外もあの考えたり書いたりしたんですけど、出だしが夜でしたわ、

男、トレーナーを枕にして寝転がる。

男、、、冷た(笑い)、

少し間。

女、、、横に？

男(笑い)、

女・女2、、、

男、、、

男、目を瞑る。

女2、、、寝られるんですか？

男 やや、(笑い)、

女・女2、、、